

TEIKA

Teikyo University of Science

ニュースレター 2012 第25号

巻頭レポート

看護学科、スタート。

— 少子高齢社会に活躍する看護師の
養成を目指して —



特集

学生のサークル活動と 地域の交流レポート

◆ 教員の活動報告

- メッセージボイス
- 保護者の声
- 卒業生の近況報告
- AARシンポジウム報告
- キャリア支援センターのお知らせ
- 入学式・卒業式
- 新任・退任教員の紹介
- 科大祭・桜科祭のお知らせ



いのちをまなぶキャンパス

 帝京科学大学

少子高齢社会に活躍する 看護師の養成を目指して

足立区で初めて4年制大学の看護学科が誕生しました。
「地域に開かれた大学」を目指し、
新しい時代の社会に貢献できる人材を養成します。

学科長あいさつ

看護学科は本年4月に誕生しました。入学した一期生は看護への志の篤い男性13名、女性77名です。学生と教員はともに手を取り合って、本学における看護の糸を紡ぎ始めました。

現在、わが国の看護系大学は209校あり、今年度は本学を含めた9校が開学しました。その中でも本学科は、足立区で初めての看護系大学であり、看護師免許受験資格のみを取得する4年制大学として新設されました。これまでの看護基礎教育の内容に加えて、超高齢社会の人々が在宅で生活できることを支援する教育内容を強化していきます。このことは卒業後、急性期病院に就職しても、入院時からその患者さんの退院後の生活を意識して取り組む看護につながります。さらに、訪問看護ステーションなどの在宅看護における活躍も視野に入れていきます。

新しい時代の社会に貢献できる人材の教育をより効果的に進めるために、加藤基子教授を中心に専門家や地域の方々の意見も取り入れて、教員全体でよりよい方策を探る研究に着手しています。

また初めての臨地実習(基礎看護学実習I)を炎天下の8月3日に終えました。学生・教員ともに緊張感と意欲を持って臨みました。2つの病院のご協力のおかげで、看護学生として学ぶ動機づけや意欲が高まり、感謝しています。看護は実践の科学であり、実践現場で患者さんを通じた学びが生きた力となり、今後の看護へのより大きな発展へとつながります。

私は一期生と共に創る看護学科の第一歩を踏みだした今、揃って卒業することを夢見ています。



看護学科長 泉 キヨ子

人が動物と暮らす効果について熱く語られる

平成24年2月21日、IAHAIO(人と動物の関係に関する国際組織)会長のレベッカジョンソン先生の来日記念講演会が本学で開催されたのを機会に、看護学科就任予定教員とジョンソン先生とのミーティングを開催しました。

ジョンソン先生はミズーリ大学シンク

レア看護学校の老年看護学の教授であり、大学内に設立された高齢者の集合住宅でペットと暮らしながら、様々な介護サービスを受けることができる場としての「タイガープレイス」の運営に携わっています。

ミーティングの中で先生は人が動物と

暮らす効果について熱く語られ、動物の癒しの力を看護に生かす動物介在看護について示唆を受けたことは、意義深いことでした。

今後、本学科においても人と動物の看護についてのコラボレーションのあり方を模索していきたいと思えます。



ジョンソン先生のご講演



IAHAIOのみなさんと



看護学科の玄関に小さな
ベンチがあります
朝は
幼稚園のバスを待つ母と児が
午後には
買い物車を引いたお年寄りが一息いれたり
談笑したり……
地域の人たちがここに腰かけていきます
私たちも
千住に暮らしている人々と出会い、学び、
そして、
暮らしに役立ててもらえるよう
学びを看護として差し出せるよう
になりたい

1期生、夢の実現にむけてスタート

ユニフォームでの最初の技術演習



最初に教員がベッドメイキングのデモン
ストレーションを行いました。そのあと、
小グループに分かれ、実際に学生たち
でベッドメイキングを行いました。



小グループに分かれ、教員が技術について確
認・指導しています。学生は、質問をしながら
技術演習を行っています。
授業以外でも主体的に技術練習に取り組んで
います。



環境チェック中

実習室内の温度・湿度を確認しています。
患者さんの病床環境について学んでいます。

6月17日(日) オープンキャンパス参加



キャンパスナビゲ
ーターとして、個別相談・
看護体験で活躍!

来場された高校生や
保護者の方々に説明
しました。

バスケットボールを通して関係づくり



運動を通して仲間意識が高まりました。運動は、
健康にも大切な要素です。



10月21日 千住キャンパスにて オープンキャンパスを実施します!

学生のサークル活動と地域の交流レポート

第3弾

本学には現在、90を超える課外活動団体があり、それぞれが目標を持ち、地域や学外との連携を図りながら独自の活動を展開しています。今回は、その第3弾となります。

バスケットボール部 上野原キャンパス

(部長：橋口 剛夫)

僕たち男子バスケットボール部は選手14人、マネージャー3人の合計17人で活動しています。僕たちはバスケットボールを通して、技術だけでなく自分自身の心を磨き、人として成長していくことを目的として活動しています。また、一戦一戦必死になって戦うことをチームとして心がけて取り組んでいます。年に何度か大会があり、その中でも9月から10月の毎週土、日に約2ヶ月間かけて行われるリーグ戦は1年間で一番熱い大会であり、長い大会でもあり、僕たちの気持ちも高揚します。また、年に一度OB戦を開催し、OB

の方々との試合を行い交流しています。ここでは、バスケットボールを寄贈していただいたり、たくさんの方の支援をいただいています。今年は創部22年目になりますが、歴代のOBの方々には100名を越え、そのOBの方々の支えもあり、僕たちはバスケットボール部として活動できています。ですので、感謝の気持ちを忘れずに日々バスケットをしていきたいです。そして、これから先何年経っても、この気持ちが途絶えることなくバスケットボール部があり続けてほしいと思います。

主将：森山 友介
(自然環境学科4年)



バスケットボールを通して、技術だけでなく自分自身の心を磨き、人として成長していくことを目的として活動しています。



一戦一戦必死になって戦うことをチームとして心がけて取り組んでいます。

軽音楽部 上野原キャンパス

(顧問：川田 裕樹)

軽音楽部Music Jean'sは年に数回、団体で主催して行う『Jean'sライブ』と、科大祭でのステージ発表を目標に活動しています。現在は月～土曜までバンドごとに週一回練習をしています。“軽音楽を楽しみたい”“演奏技術を高めたい”という熱意を持った学生が集まっている部活です。楽器、バンド初心者も多く、上級生や経験者が積極的に指導を行っています。他学年、他学科の学生と親睦を深めつつ、和気あいあいと活動しています。ライブでは練習

の成果を披露し、お互いの士気を高め合います。初めてステージに立つバンドも最初は納得のいく演奏ができなくても、場数を踏むにつれて余裕のあるパフォーマンスができるようになります。科大祭は開放感のある屋外ステージで多くの方に演奏を聴いていただき、少しでも私たちの活動に興味を持ってもらえるよう、特に力を入れているイベントです。今後もっと活動の場を広げ、皆さんに音楽の魅力を知っていただければ、と思います。



“軽音楽を楽しみたい”“演奏技術を高めたい”という熱意を持った学生が集まっている部活です。



「Jean'sライブ」と、科大祭でのステージ発表の様子

代表：小林 祥子
(アニマルサイエンス学科2年)

野生生物研究部

上野原キャンパス

(顧問：島田 将喜)

野生生物研究部は、「地域の野生生物を観察・研究することにより、人間社会との共存をめぐる課題を考えること」を目指しています。通称“野生研”では6つの班(水鳥班、ホタル班、水生生物班、青空教室班、鳥獣保護班、センサーカメラ班)が活動しています。

水鳥班では、月に2回、桂川と大野貯水池にて水鳥の個体数の経年・周年変動を調べています。ホタル班では、大学周辺のホタルの成虫とホタル



の餌になるカワニナの生息数調査を行っています。水生生物班では、仲山川上流、シンタゴ沢、仲山川下流で水生昆虫の調査をし、川の汚染原因との関係を調べています。青空教室班では、野外での野生動物の観察を通して学びを深めています。鳥獣保護班では、鳥獣保護許可書を交付された上で、上野原周辺で保護された鳥(スズメ・ツバメ・ヒヨドリ・ムクドリ・キジバトに限定)の一時保護に関わっています。センサーカメラ班では、自動的にシャッターが下りるカメラを糞、食痕、足跡、獣道などの痕跡をもとに設置して、アライグマなどの哺乳類の生息を調べています。

これらの活動をとおして、野生生物と人間社会との共存について考えていきたいと思っています。



動物が通りそうな場所を見定めて、自動的にシャッターがおりるカメラを仕掛けています。



藤原 詩織

(アニマルサイエンス学科3年)

キッズアスレチックサークル

千住キャンパス

(顧問：井筒 紫乃)

こんにちは！ 私たちキッズアスレチックサークルは遊びや運動を通して子どものより良い成長の手助けをしていくという理念の基に活動しています。

近年の子どもは思い切り身体を動かすという機会が少なかったりします。特に都市部の子どもは屋外で遊びたくても空き地など遊べるスペースがなく、またスペースがあっても子どもにかかわる犯罪の増加によって屋外で遊びにくく携帯ゲームなどを使ってお友達と屋内で遊んでしまったりします。こうした背景もあり現代の子どもは昔の子どもに比べて落ちてきていると言われてしています。

そのため私たちは子どもの運動にかかわる企画のボランティアに参加をして子どもと直に触れ合いながら子どもの成長段階の理解に努めています。同時にこうした企画のPRを行うことで

子どもが安心して運動できるような機会があることを保護者の方にもアピールしています。また顧問である井筒紫乃准教授の指導の下で子どもが楽しく遊びながら身体を動かせるようなアスレチックを作り、ボランティア先で子どもと一緒に楽しんでいます。こうした活動を通して少しずつ経験を重ねて子どもだけでなく私たちも一緒に成長していけたらと思っています。

松本 悠矢

(児童教育学科3年)



子どもの成長段階の理解に努めています。



遊びや運動を通して子どものより良い成長の手助けをしていくという理念の基に活動しています。

弓道サークル

千住キャンパス

(顧問：井筒 紫乃)

私たち弓道サークルは、現在約30名で活動しています。主な活動内容は、①初心者の指導 ②道場を活用した練習 ③大会への出場 ④学校行事への参加の4つです。活動場所は、初心者の指導は大学構内で、経験者



「弓道をする」ことだけではなく、「少しでも大学生活を有意義なものにする」点も重視しています。

は道場が大学内に無いので近くの千住スポーツ公園の弓道場へ行っています。

私たちの活動方針は、「先輩後輩関係にしばられることなく、楽しく真面目で和やかに」というものです。実際、議論が盛り上がりすぎて、初心者の指導がいつのまにか効率的な筋トレ法の話になっていることもありました。それでも大会などには真剣に取り組み、その場の空気を壊さず適切な対応ができるサークルに育っています。

私たちは「弓道をする」ことだけではなく、「少しでも大学生活を有意義なものにする」点も重視しています。ですので、弓道関係の活動だけではなく、学園祭などの学校行事にも積極的に参



サークル活動や学園祭を経験できるのも大学生の内だけなので、力を合わせて全力で楽しんでいます。

加しています。サークル活動や学園祭を経験できるのも大学生の内だけなので、力を合わせて全力で楽しんでいます。

これからも弓道とコミュニケーション両方のスキルアップを目指し、精進していきたいと思います。

副会長：安瀬 拓朗
(生命科学科3年)

バドミントン部

上野原キャンパス

(顧問：篠原 正典)

こんにちは！ 帝京科学大学バドミントン部です。私たちは平日2回の練習と、休日1回の自主練習を中心に楽しく活動しています。「切磋琢磨」を部旗に掲げて、バドミントンを通して仲間の大切さや目標を持つことの重要性を日々感じながら練習に取り組んでいます。バドミントン部には、経験者ばかりではなくもちろん初心者の人もいます。初心者の人も楽しくバドミントンが出来るよう



公式戦では、関東地区の大学が集まり日頃の練習の成果を競い合います。

に、基礎から練習しています。

年に2回、春季と秋季にある公式戦では、関東地区の大学が集まり日頃の練習の成果を競い合います。また、山梨県内の大学が集まり、交流戦を行う「県内リーグ」にも参加しています。最近では、新しくできた千住キャンパスのバドミントンサークルとも交流を始め、定期的に交流試合を行っていこうと検討中です。地域や他大学との交流があまり多くない私たちにとって、経験を増やすためのとても貴重な機会になっています。

春休みや夏休みなどの長期休みを利用して行う合宿では、普段のメニューに加えてさまざまな練習を行います。しかし、そんな辛さを一緒に乗り越えてきた仲間とは、一生の繋がりを持つ事が出来ると思います。これからも、楽しくかつ目標を持って活動していきたいと思っています。

伊藤 亜矢乃

(アニマルサイエンス学科3年)



長期休みを利用して行う合宿では、普段のメニューに加えてさまざまな練習を行います。

「切磋琢磨」を部旗に掲げて、バドミントンを通して仲間の大切さや目標を持つことの重要性を日々感じながら練習に取り組んでいます。



摘み草の会

(顧問: 渡邊 浩一郎)

上野原キャンパス



私たち摘み草の会は、2010年4月に発足した新しいサークルです。野草の魅力は、美味しく食べたり、薬として使ったり、遊びに使ったりと、様々な活用法があることです。その魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい、その思いから野草のより美味しい料理の作り方を自分たちで考え、広めていこうという目的のもとに設立しました。

現在、10人と少人数ですが、上野原キャンパス周辺で食べられる草を皆で探したり、また採取した草を美味し

く食べる調理法を考えたりして楽しく活動しています。発足当初には、皆で図鑑を片手に姿形と名称をひとつひとつ確かめながら食べられる野草を探していました。それも今では実際に野山に生息している野草を、図鑑を見なくてもわかるようになりました。

最近では、自宅や知人の畑でハーブを育てたり、野菜料理を研究したりと食用野草の採取と調理に限ることなく活動の幅を広げています。今までにもぎと胡桃のクッキーや、ノビルの味

噌炒めなどを作り、味はメンバーの間でも好評でした。

今後は、自分たちで考えたレシピをウェブ上にアップするなどして、学外の方へも食用野草に関心をもって貰えるような情報を発信していきたいと思っています。

岩崎 咲恵

(自然環境学科3年)



野山に生息している野草を、図鑑を見なくてもわかるようになりました。

スポーツトレーナー研究会

(顧問: 有賀 雅史)

千住キャンパス

私たちスポーツトレーナー研究会は、東京柔道整復学科の1・2年生で構成されています。昨年より発足したばかりのチームです。2年生はアスレティックトレーナー課程を専攻している学生ですが、1年生からはトレーニング指導者資格の取得を目指す学生や、資格試験は受けなくとも、トレーナーの勉強をしたい!という勉強意識の高い学生が参加をしています。顧問とし

てアスレティックトレーナー課程の有賀雅史先生と大石徹先生の指導のもと、常に現場での経験をもとにした実践的なアドバイスをいただいています。現在は、「Action, Thinking, Teamwork」を信条として、学校外のスポーツチームでの実習と、学内にチームを招いての実習、地元地域で開催されるスポーツ大会のトレーナーブース参加を主な活動としています。今年から後輩も入り、チームとして、様々な活動を展開していく予定です。

スポーツトレーナーという職業や仕事の内容などはまだまだ一般の方々には認知をされていない現状があるので、私たちの活動を通して、トレーナーの存在と必要性を知っていただけたらと思っています。



トレーニング指導者資格の取得を目指す学生や勉強意識の高い学生が参加をしています。



代表: 石井 和磨

(東京柔道整復学科2年)

教員の活動報告 Teacher's Activity Report



実習・体験重視のAT課程

東京柔道整復学科
教授 有賀 雅史

私は、2011年4月より東京柔道整復学科アスレティックトレーナー(AT)課程開設とともに本学に赴任いたしました。トレーニング科学、スポーツ医学、人体栄養学が私の専門分野です。

授業ではトレーナー実習、予防とコンディショニング、トレーニング科学演習を担当しております。スポーツトレーナーを志望する学生たちの指導やサポートを行っています。彼らに日ごろから伝えていることは、「当たり前のことを徹底して当たり前に行くこと」、「何事も一生懸命に取り組むこと」、「他者に思いやりをもって接すること」です。メリハリのある、厳しく楽しく授業をこころがけています。AT課程の学生たちは、みな将来性のある元気で明るい若者で、人間性の高い医療人やトレーナーとしての成長と活躍を期待しています。



野外観察の楽しみ

児童教育学科
教授 村野 芳男

本学に赴任する前の36年間、中学校社会科の教員をしていました。中学校教員時代からの延長で、私の研究の中心は「教育の場における野外観察の在り方」「野外観察を取り入れた教材開発」についてです。中学校の普通の授業では、生徒を野外に連れ出すことは難しく、年間1~2回でも実施できればよしとしなければなりません。そこで次善の策として、教師自身が野外(とりわけ学校周辺)を観察して教材の発掘と教材化を行うことや、学校行事(遠足や修学旅行)の活用を工夫するなどの「教室と校外を結ぶ授業づくり」について研究しました。

本学に赴任して3年目、後期には、「校外学習活動論」の講義が開講されます。小学校や幼稚園の教員を養成する児童教育学科では、教師自身が野外に出て教材を発掘し教材化する視点や方法の習熟、主に小学生児童を対象とした野外観察の指導法などについて考察する授業です。今から楽しみにしています。



お化け煙突モニュメント

いのちの設計図と私たちの研究

生命科学科
教授 岩瀬 礼子

遺伝子ってなんでしょ？ 生命の設計図で、DNAという物質でできています。それは、細胞の中でも、核という丸いものの中に入っています。私たちが生きているのは、その設計図に従って、知らないうちに体の中でさまざまなタンパク質が作られ、それらが働いているからです。一方、DNAの形に変化が起こると、タンパク質が上手く作れなくなり、その結果病気になることもあります。

私の研究室では、細胞の中に入ると、ある遺伝子からタンパク質が作られるまでの流れを、選択的かつ効率よく止める物質を化学合成し、その性質を調べる研究を行っています。化学の知恵と技術を使い、生命科学の研究と病気の治療・診断に役立つ、機能性の高い人工核酸を創ろうと、学生たちと共に実験を積み重ね研究を進めています。

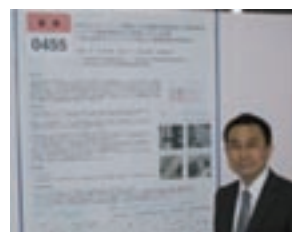


DNAの分子模型と上野原の夏空

運動による高齢者の体と頭 の健康促進

東京理学療法学科
教授 前島 洋

超高齢化社会を迎えた今日、ウォーキングや転倒予防を目的とする体操といった地域高齢者の健康促進に対する取り組みが、盛んに行われています。高齢者の運動習慣の効果として、単に運動機能の維持・改善のみでなく、脳の健康維持・改善に対する効果が注目されています。私たちの研究においても、老齡モデルマウスを用いて運動の効果を検討したところ、脳の記憶の中核に

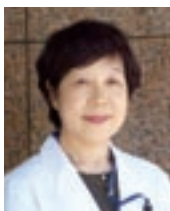


日本理学療法学会
大会(平成24年5月、神戸)にて

において、神経を保護する物質のはたらきが運動習慣により改善し、神経受容体の発現量も増えることが確認されています。高齢者におけるアルツハイマー病を始めとする認知症の進行予防に対する運動習慣による効果が期待されています。

手洗い ～命を守る きれいな手で!～

看護学科
教授 長谷川 ゆり子



医療従事者の手はなにをする手? 脈をと
り病状を診断する手、患部を取り除く手、痛
いところに当て苦痛を軽減する手で大切な働
き者。困ったことにこの働き者は悪い菌の運び屋にもなります。現
実の医療現場では、医療従事者の手指を介しての「交差感染」から
患者を守り、自身を守るために、感染に対する正確な知識と適切
な予防行動が求められます。

そこで、1年次の最初の看護技術演習で“手洗い”の授業を入
れています。たかが“手洗い”と思っている学生たち。体験してその難
しさにショックを受ける学生たち。日々訓練と自覚し、演習でのケ
アの前後に実施するプログラムを継続しています。

3年次では、その延長線上で、より専門的な「感染看護」の授業
を行います。

卒業後には、「手指衛生は全ての医療従事者の一生の責任」と自



ICHG研究会作成「手洗いの手順」のリーフレットより

覚し、意識的に、“命を守る きれ
いな手で!”のWHOの取り組み
が継続的に実践
できる人になっ
てくれることを期待
しています。

闇夜にクジラやイルカを観察する

アニマルサイエンス学科
准教授 森 恭一

野生のクジラやイルカの一日の生活リズムを解明するのが、私
の研究テーマのひとつです。しかし、夜間は一生懸命目を凝らし
ても、その姿を見つけることすら至難の業です。

そんな課題に挑む心強い同僚がいます。水中マイクと、デー
タロガーと呼ばれる動物の行動記録計です。石川県能登島の小さ
な入り江に設置した水中マイクは、日中頻繁にこの入り江を利用
しているミナミハンドウイルカが、夜間にはぱったりと現れなくな
ることを明らかにしてくれました。小笠原の沖合でマッコウクジラ
に取り付けたデータロガーは、日
中頻繁に潜水を繰り返していたク
ジラが、夜半には海面近くでじっ
としている様子を記録していました。

これまで名実ともに闇だったク
ジラやイルカの夜の生活に、一筋
の光が見えてきました。



卒研学生(左)と水中マイクを
設置している様子。

銀河系の地図を作る

総合教育センター
講師 倉山 智春

入来局(鹿児島
県)の望遠鏡

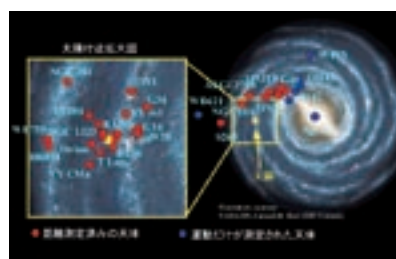


VERAの観測局配置図

地図を作る一番簡単な方法
は、飛行機を飛ばして航空写
真を撮り、それをもとに地図
に直すことです。しかし上空
に行くことなく地図を作るの
は、道路の長さをひとつひとつ
測定するほかなく、大変な作業になります。

このことは宇宙ではとくに大変です。太陽が属する、太陽のよ
うな星の集まりである銀河系は、どのような形をしているのでし
ょうか。当然ながら、航空写真のように「銀河系を外から眺める」こ
とは不可能です。その代わりに、星の距離を一つ一つ丹念に調
べるしかありません。

私も参加している、国立天文台が鹿児島大学と進めるVERA
プロジェクトでは、国内4か所の望遠鏡を用いて星の距離を測定し、



これまでにVERAで距離が測定された天体
写真提供/国立天文台

この作業を地道に
行っています。すでに
約30天体の距離測
定に成功し、今後天
体数を増やすことで
銀河系の姿が徐々に
明らかになること
でしょう。

大気中に少しだけ含まれる 化合物の観測

自然環境学科
講師 和田 龍一

私達の研究室では、大気中にほん
の少しだけ含まれる化合物の観測を
行っています。私達の周りにある大気は、
窒素と酸素でほとんどが占められてい
ますが、これら少しだけ含まれる化学
物質が地球温暖化やオゾン層の破壊
など地球環境に大きな影響を与えてい
ることが知られています。私達の研究
室では現在富士山のふもとにある森林
にて、気象観測タワーと呼ばれる鉄塔
に観測機器を設置し、大気中にほんの少しだけ含まれる化学物
質の濃度変化を、森林総合研究所や山梨県環境科学研究所と
いった研究機関と共同で観測し、森林生態系がこれら化合物の
濃度に及ぼす影響を調べています。富士山ふもとの森林は気持ち
がよく、とても気に入っている場所です。



研究室の学生との気象観測タワーでの作業時の様子

惜しむことない、教育への貢献に感謝! 足立区立元宿こども園園長 飯塚慶子

私が、帝京科学大学の先生方と接点をもったのは、平成22年に幼児の足裏の測定の依頼を受けた時からです。当時、散歩に行くたびに「疲れた!」「まだー?」と根をあげる子どもたちに、幼児期に存分に体を動かして遊ぶことの楽しさを味わわせたい、運動遊びが好きになり進んで運動する子どもたちを育てていきたいと考えていた時でした。

測定の結果は、個人差が大きく集団教育の中だけでは解決しない、家庭との連携が必須であることが窺われました。そこで、親子で楽しむ運動遊びの講演会や食生活の重要性を鑑み、保護者対象に栄養学の視点からご講演いただきました。少し意識したり、子どもたちの生活に心を寄せたりすることで効果的な改善が図れることが分かりました。

23年度は、大学の授業に子どもたちが伺ったり、園の夏祭りにボランティアとして応援をしていただいたりと相互に有益な交流を進めさせていただきました。

今年度は、4歳児5歳児を中心に“わくわくスポーツ”と称し、発達年齢に応じた運動遊びを毎月定期的にご指導いただいています。這うこと、歩くことから始まり子どもたちが生まれてから現在に至るまで獲得してきたはずの動きを再確認しながら、これからの課題を明らかにするプログラムです。子どもたちにも大好評で、この日をとても楽しみにしています。帝京科学大学の教育財産を、地域の子ども、保護者、教職員に存分に開き、惜しみなく提供して下さることに感謝するとともに、この恩恵を必ずこども園の教育活動に反映してまいります。



メッセー
ジボイス

各方面から寄せられた声をお届けします

活躍する卒業生

浜口あさひさん(足立区立淵江中学校教員)からの近況報告です。

こんにちは。平成21年度にアニマルサイエンス学科を卒業した浜口あさひです。現在は東京都足立区立淵江中学校の教員をしています。

私は入学時から教員を目指していたわけではなく、夢は海棲哺乳類の研究者になることでした。大学で高校・理科の教員免許を取得しようと思ったのも「資格があれば」という気持ちからでした。そんな私に転機が訪れたのは母校(中学校)での教育実習でした。教員の熱意や「わかった」ときの生徒の笑顔などから、本気で中学校の教員になりたいと思いました。しかし、私が取得できるのは高校の教員免許であったため、卒業後、科目等履修生という制度を活用し中学校の教員免許に必要な単位数を取得しました。そしてその年の東京都の教員採用試験になんとか合格することができ、現在に至っています。

教員になって3年目、現在は2年生の担任をしています。子

どもたちと過ごす毎日は本当にパワフルで刺激的でいろいろな発見があります。そしてとにかく、楽しい!!

時には悩んだり、落ち込んだりすることもあります。本当にやりがいのある仕事です。

大学生生活の4年間というのは社会に出るまでに自由に自分で使える貴重な時間です。最初から決めた目標に向かって真っすぐ進んでいくのも良い、途中で道を変更しても良いと思います。ただ、やるからには本気で、自分がこうだと決めたことには一生懸命向かっていってください。私も子どもたちのために自分ができることを精一杯取り組んでいきます。



保護者の声

尾申明子様(医療科学部作業療法学科4年 尾申瞳さんのお母様)からメッセージをいただきました。

娘が大学生になり早いもので卒業まであと半年余りとなりました。親元を離れ一人暮らしができるか親として不安な面は多々ありましたが、最初の半年間程で吹き飛びました。それは最初こそ月に2回くらい帰って来ていたのが、月を追うごとに回数が減ってきたことです。幸い良い先生方や、ともだちにも恵まれ、学校のことやともだちのことを楽しそうに話してくれる娘の表情が、イキイキしているのを見て、この学校は娘には最適だったと実感しました。しかし、保護者として一番気がかりだったのは、1年生の

保護者会の時に先輩方のご両親が口々にしていた実習のことでした。実習地も沖縄県から茨城県と転々としており、一人で見ず知らずの土地で生活しなくてははいけません。とても心配でしたが、何とか無事にクリアでき、いろいろなひとたちと関わったことで人間的にも逞しく成長出来たと思います。実習も残り1ヶ所となりました。今までの経験を生かし、体調管理もしっかり行い乗り切りたいと思います。そして残りの学生生活を有意義に過ごして欲しいと思います。

アニマル・アシステッド・リハビリテーション(AAR)シンポジウム 特別支援教育に私たちができること ～うま(乗馬)の可能性を通して～



本学では、「動物介在リハビリテーション」をテーマに勉強会や公開セミナーを活発におこなっています。お互いの専門を学ぶことと、学生諸君に学びの場所を提供することを目的に今年で4年目をむかえます。平成23年度には科大祭において第2回を開催し、学外の方々へこの活動を公開しました。

① 三尾真琴(総合教育センター 教授)
「高等学校における特別支援教育と不登校」「うつ病」などの二次障害を回避するための対策」

② 近藤知子(作業療法学科長 教授)
「障害が起きた際の、あるいは、健康の回復・維持



促進における作業療法の役割とAARとの連携」

③ 石井孝弘(作業療法学科 教授)

「動物を介したリハビリテーションの意義と障害に対する治療手段ならびに、その実践」

④ 滝坂信一(アニマルサイエンス学科 教授)

「馬をパートナーに行う『障害のある子どもの教育』、『心理臨床』の特徴や実施上の配慮と豊饒」

特別支援教育の大切さにはじまり、そこに乗馬がどのように関わるかを実践されている教員からの報告をまじえて議論がされました。本学だからこそ可能なシンポジウムであり、今後の展開が期待されます。

(アニマルサイエンス学科 教授 小川家資)

キャリア支援センター だより

学生が将来を考える拠点として



本学では、千住・上野原両キャンパスに「キャリア支援センター」を設置し、卒業後のキャリア・デザインができるよう取り組んでいます。両キャンパスの在学生の特徴を踏まえ、連携を取りつつ独自の支援プログラムを展開しているところです。両キャンパスで年

間150日以上キャリア支援行事を開催するだけでなく、キャリアカウンセリングの有資格者を常置し学生のキャリア相談を強化しておりますので、在学生だけでなく父母保証人のみなさま、卒業生の利用をお願いいたします。キャリア支援センターのスタッフ一同、みなさんを支えていきたいと考えています。

卒業式・入学式



平成24年3月21日(水)、日本武道館にて平成23年度帝京大学グループ卒業式が厳かに挙行政され、本学からは402名が無事学舎を巣立って行きました。今年は作業療法学科、こども学科の1期生も卒業を迎え、その全員が関連企業に就職が決まりました。卒業生皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し



卒業式

上げます。

平成24年4月4日(水)、日本武道館にて平成24年度帝京大学グループ入学式が晴れやかに挙行政され、本学は1165名の新入生を迎えることができました。心より歓迎いたします。千住キャンパスは今年で3年目を迎えまた、新設の看護学科も加わりました。新入生の皆様が十分に力を発揮されますようご期待申し上げます。



入学式

新任教員の紹介

平成24年 着任 (8月末日現在)

〔医療科学部〕

昇 寛
西條 富美代
安齋 久美子
小橋 一雄
伊藤 譲

小林 咲里亜
小薬 祐子
戸田 すま子
加藤 基子
岡村 千鶴

佐藤 亜月子
城野 美幸
清野 純子
岡本 紀子
高田 大輔

〔こども学部〕

鳥越 ゆい子
大須賀 隆子
〔総合教育センター〕
加賀谷 玲夢
倉山 智春

退任教員

平成23年度 退任

〔医療科学部〕

高橋 高治
奥 壽郎
郭 丹
椎名 喜美子
三上 眞弘

〔こども学部〕

別府 敏夫
羽田 行男
鈴木 智子
北 徹朗

〔生命環境学部〕

桑原 尚夫
〔総合教育センター〕
高岡 浩二

今年も新しい・楽しいが盛り沢山!!
上野原キャンパス・千住キャンパス
それぞれの大学祭をご紹介します。

★10/6(土)・7(日)開催!!

上野原「科大祭」



本学学生の姿、笑顔、思い、たくさんのものがこの科大祭に込められています。



みなさんこんにちは!! 科大祭実行委員会委員長の佐藤由貴です!!
上野原キャンパスで行われている科大祭も、今年で22回目となりました。
この伝統あるイベントを毎年行っているのも、来てくださるみなさんがいるからです。本当にありがとうございます!!

もちろん今年も科大祭を開催いたします。日程は10月6日(土)10時~17時 7日(日)10時~16時、後夜祭7日17時~19時です。
今年のテーマは「LIFE」です。帝京科学大学では「命」と関わる勉強をしています。まさに「LIFE」には本学の全てが詰まっており、また、本学学生の活気や生きがいを科大祭で爆発させよう!! という意味が込められています。

今年の科大祭は、部活やサークルなどの団体による模擬店、展示、ステージ発表など一丸となって盛り上げていきます!! 先生方による学術企画もあります。食べ歩きをするもよし!! 展示を見て自分の興味を広げるもよし!! ダンスや犬たちのパフォーマンスを見て感動するもよし!! きっとみなさんうさぎわくわくさせてくれるものばかりでしょう。

ここで少し、ステージ企画について紹介させていただきます。炭酸なんかに、ビー玉なんかに負けてられない?! 「ラムネ早飲み大会」、親ばかりを發揮しよう!! 「アニマルファッションショー」、みなさんにも参加していただける「ビンゴ大会」!! こちらはビンゴカードを買っていただき、豪華賞品を狙っていただきます!!

そして忘れてはいけないのが後夜祭です。今年は「POWERFUL」というテーマで行い、最後まで元気に弾けていこうと思います!! 毎年恒例となった花火も打ち上がります!! どなたでも参加できますので、ぜひ一緒に感動しましょう。

本学学生の姿、笑顔、思い、たくさんのものがこの科大祭に込められています。ぜひ、上野原キャンパスまで足を運んでいただき、帝京科学大学の活気を肌で感じていただけたらと思います。みなさんのご来場お待ちしております!!
(科大祭実行委員会 委員長 佐藤由貴)

千住「桜科祭」

★11/3(土)・4(日)2日間開催!!

はじめまして! 桜科祭実行委員会委員長の深沢彪です!
桜科祭実行委員会は、千住キャンパスの大学祭「桜科祭」の企画・運営のために活動しています。

今年度も桜科祭を開催します! 11月3日(文化の日)と4日(日)の2日間です!!
第2回桜科祭は昨年よりも盛り上げていきたいと思っていますので、どうぞご期待ください。

本年度の桜科祭のテーマは「開花 開科」です。第1回で芽吹かせた桜科祭を花咲かせようという意味の「開花」と、千住キャンパスをより知ってもらおうという意味の「開科」を組み合わせるとこのテーマになりました。

今年度も「学術企画」を用意しております。また学生企画ではミス・ミスターコンテスト、サークル団体による模擬店や、発表ブース、軽音サークルによる演奏などなど、たくさんの企画を用意しています。実行委員会は1年生の新メンバーも増え、去年よりもパワフルな組織になりました。みなさまのご来場を心よりお待ちしております。
(桜科祭実行委員会 委員長 深沢彪)



本年度の桜科祭のテーマは「開花 開科」です。

【編集後記】

千住キャンパスに今年は看護学科が開設されました。ここ数年、帝京科学大学は大きく変化しています。このニューズレター「TEIKA」では、大学の取り組みや学生の様子などできるだけ分かり易くお伝えできるよう心掛けて編集しております。学生のサークル活動や教員の活動報告などの原稿依頼に関してもみなさん快

引き受けていただき、とても良いニューズレターが出来上がったと思っています。

千住・上野原・山梨市キャンパスと規模が大きくなり、学生数もさらに今後増えていきます。「いのちをまなぶキャンパス」として、多くの学生が地域との連携を図り多くの活動を行っています。今後も、学生が生き生きと活躍している活動をお伝えしていきます。
(ニューズレター部会 長谷川 辰男)

発行人: 帝京科学大学 学長 沖永 莊八

〒120-0045 東京都足立区千住桜木2-2-1 TEL: 03-6910-1010 (代表)

帝京科学大学ホームページ URL: <http://www.ntu.ac.jp/> E-mail: tustnews@ntu.ac.jp

※ご意見、ご要望をお寄せください。

